

B003

- T: はい, じゃ, お久しぶりです。
- I: あ, 久しぶりです {笑}。
- T: はい {笑}。  
えー, 結構待たせちゃいました?。  
何時ごろいらしたん…
- I: あ, そうでもないけど <あ>。  
あの, 少し【人名1】さんと <はい> いろいろ話しして <はい>, はい。
- T: えーと, 1年ぶり。
- I: 1年。  
きょーねん [去年] も同じ時期ですか?。
- T: 頃ですよ。
- I: あー <はい>, 夏 <はい> 休みですね。
- T: はいはい。  
あ <はい>, 夏休み。  
たぶん9月のはじめだったかな。
- I: 秋…
- T: はいはいはい。
- I: の時期かな, はい。
- T: はい。  
えー, どうですか, 1年間。  
この1年間, どんなことがありましたか {笑} ?。
- I: あ, いろんなこと <{笑}> ありましたかって, いや, あの, 生活の中は, あの, うちの息子, 5年生になっ  
て <はい>, 部活<sup>^</sup>で頑張ることでできました。  
あの, レギュラーになりました。
- T: ふーん。  
え, 部活, なんの部活?。
- I: 野球です。
- T: おー, レギュラー。
- I: だから, はい <はい>, 夫婦も忙しくて <はい>, はい。
- T: う…
- I: 毎週, 練習試合というか <はい>, はい。  
お母さんも一生懸命, 制服で, 野球のユニフォーム <はい>, 毎日 <はい> この手で洗いました {笑}。
- T: 手で洗わないといけないんですか?。
- I: いや, うちの国は, みんな同じですね。  
ブラシもしないで <はい>, ほんとに手で, こう {手を擦り合わせる}, やるんですね。
- T: あ, フィリピンでは?。
- I: フィリピンですね <はい>, はい。  
で, 日本人のお母さん, いろいろ聞いたんですけども <ええ, ええ>, 1回, はらって [洗って] <はい>,  
洗濯, 洗濯機で <はい> 回して。
- T: はい。
- I: はい。  
で, あの, どうしても汚れがひどいときは, 1回お湯で, あー, 何分とか <はい>, 例えば長くても1時間  
ぐらいおいて <はい>, で, あ, 大丈夫なと思ったら <はい> 洗濯機に入れて <ふーん>, 回す。  
わ, わからないけど。  
でも <はい>, うちの国はほとんど。  
たぶん昔はね, 洗濯機ないから <ええ, ええ>, はい <はい>, そういう育て方に, な, なりましたから <は  
い>, はい。
- T: じゃ, ま, 毎日まだ今も…
- I: うん, 毎日ですね, はい。
- T: 手で洗ってる。

B003

- I : じゃ、今帰ってきて〈はい〉、あの、ユニフォームは2セットだけだから。
- T : はい。
- I : はい。  
やっぱり〈はい〉、毎日〈はい〉洗わないと間に合わないです。
- T : で、えー、洗濯機じゃなくて手で洗うのには、なんか、その、フィリピンでやってたっていう以外の理由があるんですか、【I】さんは{笑}？。
- I : いや、あたしに対しては、いつも、うちの息子がね〈はい〉、毎日のようなわたしの背中見て、お風呂場で〈はい〉、こう、大きい、なんというかな、たら、たらというか、何と言うんですか、こういう大きい洗面器ではないけど、大きい？。
- T : あー、たらい？。
- I : たらい。
- T : はい。
- I : 一生懸命。  
で、お母さん大変ですね、って〈ええ、ええ〉。  
いくらでも何分でも洗いますよ〈{笑}〉、あなた頑張れば大丈夫ですよー、って〈あー、はい〉。  
そういう、はい。
- T : あ、そういうふう…
- I : なんか、たぶん、わたしの背中見れば〈はい〉、大変じゃないですか〈あー〉、うちの息子〈はい〉、と思うんですね〈はいはい〉。  
やっぱり、こう、こういう姿見て〈はい〉、腰曲がって{笑}〈はい〉、洗面所あるんですけども〈はい〉、やっぱりたらいは大きいから。
- T : はい。
- I : はい〈あー〉。  
お風呂場で一生懸命〈あー〉、あの、こういう石鹸〈はい、はい〉っていう、頑固汚れ用の{笑}。
- T : ふーん。  
じゃ、その、手で洗うことで、なんか、伝えたいメッセージがあるんですね、息子さん？。
- I : そうですね。
- T : どういうことでしょうか、それは？。
- I : やっぱり、お母さんが一生懸命、あなたの野球のユニフォーム、一生懸命洗ってるから〈うん〉、す、これは当たり前なことなんですわ。  
でも〈うん〉、息子に伝えたいことは、頑張ってちょうだい〈うーん〉、いくらでも洗うから{笑}〈{笑}〉、いくら汚れても〈うん〉洗うから、あなたのためにやってるんですよって〈ふーん〉、うーん。  
でも、あの、うちの主人がね〈はい〉、あまりきれいにすれば、周り見ればね、うん、頑張らないねって。とってもしきれいからって{笑}。  
ほんとに真っ白ですよ。
- T : あー、毎日、真っ白。
- I : 毎日。
- T : はい。
- I : はい〈{笑}〉。  
みんなはね、軽くでもいいんですよって〈はい〉。  
なんか、気持ちがあ、そういう、あー、まだ、少し染みあるねって〈はい〉、たぶんそういう、何て言うかな〈はい〉、はい〈はい〉。  
だから、ちょこっとのし、染みでもあれば、あ、まだだなんて〈あー〉、白くなるまで{笑}。
- T : じゃ、【I】さんの楽しみなんですわ{笑}。
- I : そうですね〈うん〉、はい。  
明日も練習試合あるので〈はい〉。  
はや、早く、でも、天気見れば、ちょっと〈んー〉、やばいというか、はい、大雨だったら中止かもしれないし。
- T : 練習試合は、どことやるんですか？。
- I : あの、【地名1】の近くです〈ふーん〉。

B003

スタジオあるから〈はい〉,【施設名1】という。

T: ど, こっから, どうやってそこまで行くんですか?。

I: ここから車で, ここからたぶん10分〈うん〉,【施設名2】わかりますか?。

T: 【施設名2】, わからないんですけど, なんか, ちょっと, 簡単に道筋を説明してもらってもいいですか?。

I: じゃ, ここ, こ, ここから〈はい〉, まっすぐ行けば…

T: どっち向きに?。

I: あの,【施設名3】向きぎ〈はい, はい〉, まっすぐ行けば, 橋, あるんですね〈はいはい〉。

で,【施設名4】, 病院は右側です〈はい〉。

で,【施設名4】とおって〈はい〉, わたしの場合は, 左まが, あ,【施設名4】, ちょっと前で〈はい〉, 左曲がります〈はい〉。

で, まっすぐですよ〈はい〉。

で, たぶん, あたしのお友だちは〈はい〉, あの, 息子のお友だちのお母さんたち〈はい〉, 違う道かもしれない。

T: ふーん。

I: はい。

でも, あたしの, こういう, 通り道だから〈うん〉, 簡単なおもいました。

T: うん。

I: はい。

T: 道を選ぶのになにか…

I: いや。

T: 理由はありますか?。

I: ほかねの, お母さんたちはね, 橋, わ, わた, わた, 渡ったら〈はい〉というか, ちょっと過ぎたら左曲がります。

わたしはもうちょっと過ぎ, 過ぎたら〈はい〉, 左曲がります。

T: はい。

どうしてですか?。

I: まっすぐですから。

T: はい {笑}。

I: {笑}, たぶん, ほ, ほかねのお母さんたちは, 左曲がっても, たぶん2回, まっすぐではないですね〈あー〉。

わたしの場合は, まっすぐなほうがいい。

あの, 簡単な道。

T: はい。

I: はい。

T: で, ここ,【地名2】だと車がないとやっぱり動けないん…

I: そうですね, はい〈うん〉。

バスは乗ってもいいですけども, やっぱり時間。

T: はい。

I: はい。

東京みたいにじゃないから, 東京だったら何分間の, すぐあるんですね。

T: はいはい。

I: はい。

じゃ, あの, 最初のバス, い, い, 行っても, また〈はい〉, 3分待つてればまたあるんですね〈はい〉, バスは〈はい〉。

【地名2】は, じゃないですね, やっぱり。

T: ふーん。

そうすると, お年寄りで運転できないかとかは, 大変じゃないですか?。

I: そうですね。

でも, 最近, あーいうマークがね, なんていうマークですね, あの, 若葉マークではないけど, ちょっと, なんて言うんですね, 年寄りのマーク〈はい〉, なん, なんていうマークかな?。

B003

T: もみじマークっていう…

I: もみじマークっていうか、黄色いとオレンジの…

T: オレンジ、はい。

I: はい。

結構〈はい〉いるので〈ふーん〉、あたしはね、最近、あれ、お年寄りにも〈うん〉運転してるな〈うーん〉  
と思ったんですよ、はい。

T: でも、例えば、80歳ぐらいで運動神経が遅くな、あの、あんまり良くなくなってきて、運転してたら危  
なくないですか？。

I: そうですね〈うん〉。

危ないというか、やっぱり無理ささないほうがいいですね〈うん〉、運転、はい。

T: そうすると、生活していくのに大変じゃないですか、ここ？。

I: いや、みんなたぶんタクセ [タクシー] で〈うん〉、かよってるんですか、病院に行くときは。

T: うん、うん。

I: はい。

それで、誰の力、借りてるかな。

例えば、お嫁さんの力とか〈うん〉、孫 {笑} の力とか。

T: うん。

I: はい。

と思います。

T: やっぱり、そういう家族関係が、ここはまだしっかり残ってる。

I: あたしはね、そういう生活環境は、内容は、あんまりわからないけども、お友だちからいろいろ聞いた話。

T: はい。

I: はい。

というか、大変というか、いろいろな話、聞いてるんですけども〈あ、はい〉、いつも、あなたのかそく [家  
族] いいね、3人で暮らしてるから、羨ましいね〈はい〉。

どこまで、うら、羨ましいというか〈はい〉、いや、やっぱり、あの、お姑さんいないと〈はい〉、楽じゃ  
ないかな、みんな。

なんていうかな、羨ましいながら、言ってるんですよ。

T: はい、はい。

I: はい。

で、みんな集まっても、5時前に帰れないきゃいけないんですよ〈はい〉。

あの、ご飯の支度とか〈はい〉。

でも、あたしはね、そういう、なんていうかな、そういう、ばに、ではないけど、あの、時間は関係なく  
じゃなくて、あんまり気にしない〈はい〉。

あ、あ、5時ですねってみんなは、あ、5時前帰らなきゃいけないね。

たぶんおしゅとさん、なんか言うんよねって〈うーん〉、5時過ぎ〈はい〉帰って、帰ってきたら〈はいは  
い〉、やっぱり、ご飯の支度しなきゃいけないし〈はい〉、お風呂の準備も〈{笑}〉やらなきゃいけないし〈う  
ん〉、【I】さんいいねって。

じゃ、でも、あたしも同じですよ〈うん〉って。

これから、ちょこっと買い物〈かいもん〉に行こかな、ちょっと足りないからって。

うん、でも、いいねって〈うん〉。

何作っても、あたしたちはね、聞きながら、お母さん、今日何食べたい〈うん〉と言う。

T: はい。

I: うん。

T: で…

I: じゃ、あたしもたまに、そういう、あの、パターンもあるんですよって。

T: え？。

そういう？。

I: そういうパターン〈はい〉。

例えば、あの、息子さんに今日何食べたい〈{笑}〉、オムライスかな、シチューかな〈あ〉、はい。

B003

- T: はい。  
普通はご自分で献立を考えられる。
- I: そうですね、はい。
- T: ふーん。
- I: はい。
- T: えっと、ご主人は、お仕事は、どん、何をされてたんでしたっけ？。
- I: あ、営業マンです。
- T: え、どういう感じの…
- I: あの、【企業名】の販売してます（はい）。  
あの、ダンプトラック（はい）。  
分かりますか、【企業名】の。
- T: はい。
- I: はい。
- T: おうちで、お仕事の話とかされますか？。
- I: あ、そうですね。
- T: 大変な。
- I: 大変な。  
あー、あの、あの会社、いちばんライバルというか、あの、【企業名】のダンプがね、ほかののダンプ、これば、あ、そうですね、くらべば（はい）、【企業名】のほうが高いって。
- T: あ、そうなんですか、ふーん。
- I: でも、どうしても、なんていうかな、あの、安くできないんだって（うん）。  
やく、安くしたら、こっちは大変になるから…
- T: こっちのほうが大変になるから？。
- I: あの、自分のかいし、自分の会社というか、あの、勤めてる会社、【企業名】の。
- T: はい、はい。
- I: はい。  
なんでほかのの会社は安くできるかな、そういう話（はい）。  
で、あたしがね、うーん、そうですね、なんであなたのダンプがね（はい）、【企業名】、【企業名】、【企業名】（はい）ダンプがね、ちょこっとでも安くすれば（はい）、なんか、しょ、しょ、なんというかな、あの、勝負（はい）、勝負というか、うーん、その考えもいいんだけど、でも、大変だっってっていう、そういう話ね。
- T: あー、なかなか大変なんですね。
- I: なかなか、はい（はい）。  
で、いつも、主人も、こっちからの話も聞きたいし、きよ、今日の日どうですかって（うんうん、うん）。  
うん、ちょっと大変ですねって（うん）。  
あー、そうですかって。
- T: {笑}、{笑} え、【I】さんのお仕事は、え…
- I: 今は（はい）、あの、日本語指導（はい）の仕事はしてます。
- T: ということを、どういう時間でやってらっしゃるんですか？。
- I: 最初の仕事は、英語教師（はい）の仕事してるんですけども、そっちから【人名2】先生（はい）の紹介なんですけども（はい）、で、1年終わってから、まだ1年になってないけども、途中で（はい）、なんか、あの、【人名2】先生がね、フィリピンからの（はい）子どもがね、あの、連れ子なんですけども（はい）、あの、8歳、向こうで2年生ですけども、8歳の男の子（はい）なんだってね。  
全然、ゼロ。  
日本語の話はできないし、理解もできないし（はい）、もしかして（はい）、あの、【I】さんの力も、かれるかな、と思ったんですよ（はい）、【人名2】先生がね（はい）。  
でも、あたしは、まだ英語教師やってるから。  
でも、あの、1年間の契約（はい）。  
で、次の年は、まだわからないの。  
まだ、英語教師、や、やるかな {手を叩く}（はい）。  
で、あの、教頭先生がね（はい）、あたしのことを呼んで（はい）、いや、もしかして、【I】先生の英語の

B003

授業はね、とってもいいから〈はい〉また来年もよろしくお願ひしますと言われたんですけども〈はい〉、そういう話は、【人名2】先生の話は、もう、決まったんですよ。

あの、向こうからの男の子の、8歳の〈はい〉男の子がね〈はい〉、この年で来るから〈はい〉、来年来るから。

だから、【I】先生の力は〈はい〉、あなたしかいないから〈うん〉、たぶん、こういう仕事させるんですよって〈うんうん〉。

あ、教頭先生がね、あ、そうですかって。

いや、うちも、まったー、あの、英語の、ていうか、そ、まだ、あの、続けたいから〈はい〉、はー、すみません、あの、次の仕事決まったんで〈はい〉。

あ、そうですかって。

T: ふーん。

両方するわけには、いかなかったんですか？。

I: 両方というか…

T: 英語と日本語。

I: 英語と日本語、はい。

T: 両方は、どうして、駄目なん、時間ですか？。

I: そうですね〈あー〉。

時間というか、そうですね、あの、今の仕事は6時間、毎日6時間〈あー〉、1時間目から、朝の会から。

T: え、その1人のお子さんに対して？。

I: はい。

最初の1年、1年生のときは〈はい〉、ほんとにまい、あの、1日でこういう状態で〈はい〉。

やっぱり、ゼ、ゼロなんだから〈はい〉、もう{手を叩く}、おはようございますというか、もう、全然わからないから〈は、はい〉、はら、あの、1年生のときは、ほんとに、ぴ、な、なん、なんというんだっけ、はなさない状態で〈はい〉、で、2年生の、2年生のときは、2、2学期のとき〈はい〉、校長先生がね、うん、もう少し距離がね〈はい〉、離れてほしいなって〈はい〉。

やってみないかって〈はい〉。

あ、いいですよって。

どうしてもわからないときは、合図〈はい〉、あの子がね、あい、手上げて、あ、【I】先生の力〈ふーん〉借りたかなと思ったときは、いってもいいよって〈うん〉。

あと、今の状態もそういう、なるべく、あの、距離がね。

T: うん。

どうですか、それ、やってらして？。

I: いや〈ええ〉、最初のものは大変でした〈はい〉。

なんで、あたしこういう仕事すたなと思ひながら〈うん〉、英語教師のときは、やっぱり楽でした、はい。

T: うん。

そ、どういうふうに、どうして楽だったんですか？。

I: どういうふうについていうか、やっぱり、あの、クラスはね、みんな教えるんじゃないですか〈はい〉。

じゃ、わたしの授業は、今日の授業は、こういう授業だよって〈はい〉、自分で作って。

T: はい。

I: はい。

で、みんなはね、あ、はい、わかりましたって。

やっぱり、あの、わたしの、なんていうかな、言うとおひ、みんなも、やってるんですね。

今の状態は、担任の先生いるんじゃないですか〈はい〉。

あと、クラス[クラス]もいるんじゃないですか〈はい〉。

あの、担任の先生の教えること〈はい〉、この男に教えない、きゃ、ならないから〈はい〉。

で、男の子もね、とっても、なんていうかな、ほんとに理解できないから、最初のごろ[頃]は。

T: はい。

なにが理解できないんですか？。

I: やっぱり担任の先生の言ってること。

T: 日本語が、はい。

B003

- I : 日本語が。
- T : はい。
- I : はい。  
授業もね〈はい〉、国語、国語、算数。  
体育は、やっぱり、みんなやってること真似すれば〈うん〉いいんじゃないですか〈うん〉。  
でも授業のときはほんとに、文、書かなきゃいけないから。
- T : うん。
- I : はい。  
あと、お友だちと話しする〈うん〉言葉とか、なんか、あれ、やっぱり違うなって〈うん〉。  
いや、正しくはないよ、あなたの言ってることは〈うん〉って、それは正しくない、言われたときは、あ、わたしも悪いから、やっぱり〈笑〉〈笑〉。
- T : あの、そういうフィリピンの1人の男の子に、え、【I】さんが、ずっと、ついていらっしゃるのには、税金が使われてるんですよ。
- I : はい。
- T : それで、日本人の子どもでも、あんまり勉強できない子がいるかもしれないけど、それに、その子には誰もつかないわけですね。
- I : いや。  
ついていけない子もいますよ。  
でもうちの学校はサポーターという〈はい〉かたが、結構〈うん〉いらっしゃいので、例えば、なんていうかな、言いたくないけど、障害者の場合。
- T : はいはい。
- I : はい。
- T : ですが、1人のお子さんに、ずっとついてる、税金を使って不公平だっていうのは、考え方はないんですかね？。
- I : いや…
- T : 例えば、うちの子も勉強できないから、誰かつけてほしいわ、とか。
- I : あ、そういう。  
あー、そうですね。
- T : どうでしょうか？。  
\*…
- I : 最初の、最初のごろ〔頃〕はね、なんていうかな、いや、わたしは、ほかの子が一生懸命教えてるんですけども、うちの子は今、どうしてるかな、そういう、あるんですよ、そういう心配というか、考え方〈うん〉。  
で、うちの、うちの息子の場合はやっぱり、あの、日本人とフィリピン人のお母さんの間に生まれたから〈はい〉、どうしても足りない部分はあるんですね。
- T : はい。
- I : はい。  
だから、ちょっと、はい、そういう心配もあるんですよ。
- T : そういう心配っていうのは、お子さんにもつけてほしいっていう、そういうこと…
- I : いや、そうでもないけど〈はい〉、うちの、うちの息子はね、最初のごろ〔頃〕は、ちょっと、たぶん今までも、ひっかかっているんですね、国語の。
- T : はー。
- I : はい。
- T : はい。  
国語…
- I : あたし、あたしのせいかもしれない。  
小さいときは一生懸命バイリンガルで〈はい〉、前もいってるんですね〈はい〉。  
あの、あの、わたしの家族にも通じるように〈はい〉、英語で一生懸命教えてるんですよ。  
で、駄目というか、誰もゆ、言われなくても、やっぱり無理かな。  
どうしても日本にいるから、どうしても〈笑〉日本語しか、喋る言葉だから。

B003

でも、こっちは一生懸命、英語で教えてるんですよ〈うん〉。

なぜというか、おっき、おっきくなくても、例えば、あの、がいごく [外国] に行っても、やっぱりどこに行っても世界中で〈うん〉英語〈はい〉通じるから、そういう考えは〈うん〉あるんですよ。

T: そうですね。

I: はい。

で、里帰りに行っても、やっぱり大変ですね〈うん〉。

うちの息子が日本語しか、喋れないから、なんか、大変と思います。

T: うん。

その、言葉の問題は〈はい〉なかなか難しいかなど。

I: 難しいですね、はい。

T: えーと、じゃ、ちょっと、話を変えるんですけど〈はい〉、オリンピックはご覧になりましたか？

I: あー、そうですね、はい。

感動しました。

T: え、お、どのへ、どういうあたり？

I: やっぱり日本の応援してるから。

T: あー。

I: はい。

T: フィリピンの応援…

I: やっぱり日本の場面しか見られないですね。

T: あー、放送の問題ですかね。

I: そうで、放送の問題っていうか、そうですね、はい。

でも、やっぱり日本にいるから〈うん〉、じゃ、日本のチーム応援しなきゃいけないという〈うん〉、家族で。

T: はい {笑}。

I: はい、そうですね。

T: どこがいちばん感動的でした？

I: あ、北島です {笑}。

T: え？

I: きた、スイミングのき、あの、北島さん。

T: あー。

えーと、北島は、ど、ど、どのあたりが良かったですか？

I: やっぱり、あの、シングル [シングル] の、なんていうかな、なん、な、なんめやったんな、に、200メーター、200メーターの。

T: はい。

I: はい。

そういう、わたしがね、それしか見られ、見られてないから。

T: はい。

I: はい。

で、あ、金メダル取ったよ。

やっぱりあたし、あの、だいところ [台所]、仕事しながら〈はい〉見てるから〈ええ、ええ〉。

で、うちのパパ、あ、金取ったよって〈はい〉。

あ、あ、ほんとになって〈あー〉。

で、レプレ [リプレイ] もできるんですね。

T: ん？

あ…

I: あの、遅い時間で〈はい〉ニュースとか。

あー、取ったなって。

T: あー。

I: んー。

あの、全部の見えなかったんですけども〈はい〉、やっぱり、テレビの何回も見てるから〈うんうん〉、あ

B003

一、頑張ったなって。

日本すごいなって。

T: うん。

I: はい。

あと、なんていうかな、あたし英語しか分からないけど、ジジナスティック (はい)、あの、1人の男の人。

T: どんな動きをする…

I: あの、鉄棒で。

T: 鉄棒で。

I: はい。

T: はいはい。

I: それも金取ったんですね。

T: あー。

I: はい。

T: あー、わたしもほとんど見なかったので {笑}。

I: あとレスリングの姉妹。

T: はいはい。

I: はい。

T: はー。

スポーツってやっぱりすごい…

I: あのとき…

あ、スポーツは、に、苦手ですよ (はい)。

自分はできないから。

T: はい。

I: はい。

見るだけは、す、好きだけでも (あー)。

でも、や、野球のチームはね、ちょっと、あーって {笑} (笑)。

もうちょっと、頑張っしてほしいなって (あー)。

あと一番、かん、あ、そうですね、一番感動しましたのが、あの、ソフ、あの、ベースボールの、ソ、ソフ、ソフト。

T: はい。

I: はい。

T: あー、ソフトボール。

I: あの、女性の。

T: はい。

I: はい。

チーム。

そ、ソフトボールの。

T: どのあたりが感動的だったんですか？

I: あら、す、何ていうかな、なんか、ぎりぎりですね、あの、点、点数が (ふーん)。

やっぱり相手はアメリカだから (うん)、あ、勝つわけないでしょって (笑)。

息子も、そうだよなって (ふーん)。

アメリカ強いから。

えー、でも頑張ったなって。

T: うーん。

フィリピンの応援は、なさらなかったんですか？

I: いや、たぶんボクシング、一番強いのはボクシングだって。

T: はい。

I: はい。

あと、バスケットボールでも。

やー、オリン、オリンピックに行けば大したことないかなって {笑} (笑)、はい。

B003

でも日本のばみ [場面] しか、はい、見られないから 〈うん〉、一生懸命、日本のチーム 〈はい〉、応援したんですよ。

T: あー。

I: はい。

T: あ、フィリピンの放送、やっぱ、あんまり、フィリピンに行かないと見られないですよ。

I: うーん、そうで、そうですね。

T: うん。

I: はい。

T: そのへんはどうですか？。

日本は、日本ばかり放送して、変じゃないかとか {笑}。

I: そうですね。

やっぱり、あの、国際というかな、あの、国際番組 〈はい〉 という、あるんですけども、うちのテレビはスカイパないから。

T: あー。

I: はい。

BSしか。

T: はい。

I: はい。

見られるから。

T: はい。

I: はい 〈うん〉。

でもインターネットで調べることができるんですね。

T: はい。

I: はい。

す、でも、やっぱりテレビのほうが一番いいかなって思いました。

T: あ、そうですか、はい。

I: はい。

あの、家族で一緒に見られるから。

インターネットだと、1人だけですね。

T: はい。

I: はい。

やっぱりテレビのほうが一番いいかな 〈うーん〉。

あの、コミュニケーションしながら。

T: うーん。

I: はい。

テレビ見ながら。

T: うん。

I: はい。

T: 見られるということなんですね。

I: そうですね、はい。

T: えーと、そうですね。

じゃ、1つ、ちょっと、ロールプレイをやっていたらいいかな。

I: あっ。

T: これ。

I: これは一番怖いですね {笑}。

T: あー、そんなことはないです。

これ、ちょっと、読んでいただいてもいいですか？。

I: はい。

T: 声出していいです、いいですか？。

I: はい。

B003

来月〈はい〉、退職する人の送別会をします。  
その人にあげるプレゼントを買うお金を集めています。  
でも、あなたはお金を出し…

T : 出したくありま…

I : 出したくありません。  
あー、断ってください。

T : はい。  
じゃ…

I : あ、そうですね。

T : あの、裏側に、英語もあるんですけど〈はい〉。  
あの、同じ、一応、ちょっと、職場ということにしましょう。  
仕事の、と、仕事、一緒に、やってる。  
仕事をしているところで、誰かが…

I : あれ、{カードに書かれた英語を読む}、えー、断ることができるんですか？。

T : はい。

I : わたしは1回も断ることはありませんから。

T : あー、わかりました〈はい〉。  
じゃ、違うのにしましょう。  
断り、はい。

I : やっぱり、あの、日本の…

T : うーん、こと…

I : あの、文化というか。

T : うーん。

I : はい。

T : はい、じゃ、これはどうでしょうか？。

I : はい。

T : はい {笑}。  
もう一度、声出させていただいていいですか。

I : あなたは車を修理に出しましたが、まだできていません。

急に車を使う用事ができたので、はじめの予定より早く仕上げるように、電話でお願いしてください。

T : はい。

I : あ、はい。

T : わたしは修理工場。

I : はい。

T : はい、えー、【地名2】修理工場でございます。

I : あ、もしもし。

T : はい。

I : あ、【I (フルネーム)】です。  
どうもー。

T : あ、はい、お世話なってます。

I : えーと、昨日、あたしの車、そっちで修理、修理に出したんですけども。

T : はい、お預かりしております。

I : えっと、どうですか？。

T : はい、えっと、えー、金曜日に仕上がる、あと3日で仕上げということになっておりますが。

I : あ、そうですか。

T : はい。

I : えーと、あすた [あした]、研修会へ行く、行くので〈はい〉、どうしてもあすた [あした] の10時まで  
に、できないか？。

T : あー、ちょっと部品を取り寄せないといけなくて、ほんとに申し訳ないんですが、どんなに急いでも木曜  
日まで、あと2日はお待ちいただかないと、ちょっと無理なんです。

B003

- I : あー、困りますね。  
どうしてもできないですか、あしたの？。
- T : あ、はい、ほんとに申し訳ないです。  
あの、部品がどうしても、えー、部品の入荷が、明後日になってしまいまして、申し訳ないんですが、もうちょっとお待ちいただくわけにはいきませんかでしょうか。
- I : いや、こっちも困りますので、そっちはなんとかやってください。
- T : そうですね。  
もしかして代車でもよろしいでしょうか？。
- I : いや、代車？。  
代車はね、わたしはマニュアル [マニュアル] しか運転のことできるから、ちょっと、オートマだったら、ちょっと不安なので〈はい〉、マニュアル [マニュアル] あれば…
- T : はい。
- I : はい。  
大丈夫ですよ。
- T : あ、では、あの、マニュアルの代車を用意するということで、ちょっと、あの、お待ちいただくということでもよろしいですか？。
- I : あ、いいですか？。
- T : はい。
- I : 大丈夫ですか？。
- T : はい。  
じゃ、あしたまでに、あの、用意しておきますので〈はい〉、それでよろしくお願いします。
- I : あー、良かったですね。  
すいません。  
じゃ、あした、待ってますので〈はい〉、よろしくお願いします。
- T : こちらこそ、どうもお世話になります。
- I : あ、どうも。
- T : はい。  
ありがとうございます。  
ほんとに【地名2】だと車がないと、とても〈はい〉生活できないんですよ。
- I : はい。
- T : あの、いらしてすぐは、車は運転なさってなかったんですよ？。
- I : いや、最初のごろ [頃] は1年間。
- T : はい。
- I : はい。
- T : 我慢して。
- I : 主人の。  
我慢し、我慢してというか、アパートから〈はい〉近い、なんですよ、あの、しゃ、あの、仕事する場所が。
- T : はい。
- I : はい。  
でも、じでん、じでんしゃ [自転車] は乗らないから〈はい〉、朝はうちの主人送って〈はい〉、で、帰りはバスあるんですけども〈はい〉、しばらく待たなきゃいけないですよ〈はい〉。  
で、うちの先輩が、じゃ、あたし、送っていくか、うちまで〈ほー〉、どっちでも時間は同じだ。  
ほんとにおかげさんで、あの先輩のおかげさんで〈{笑}〉、はい。
- T : いい方に、じゃ、恵まれてここまでいらしたってことですよ。
- I : そうですよ、そうですよ、はい。
- T : たぶん【I】さんの、この性格が〈{笑}〉。  
すぐ、みなさんと友だちになるっていうあたりで良かったですね。
- I : そう、そうですか {笑} ？。
- T : はい。

B003

I : はい。

T : えー、今日もほんとにインタビューありがとうございました。

I : あ、いいえ。

T : きっとまた、帰ってご飯を作らなきゃいけない時間…

I : いや、お迎えに行かなきゃならないから。

T : あ、わかりました。

I : ほんとに部活の時間はいつも6時45分ですけども、雨降って体育館で〈はい〉ランニングだけで。

T : あー。

I : はい。

T : じゃ、終わらしましょう。  
急いで行ってください。

I : あ、そうですか。  
はい、すみません。

T : はい、ありがとう {笑} ございました。

I : ありがとうございました。

T : はい。

I : あー、緊張した {笑}。